

総論

満点	60点	目標得点	42点	試験時間	90分	偏差値	74
大問数	6	小問数	47				
【解答形式】		選択式	43/47問	記述式	3/47問	論述式	1/47問
【問題難易度】		C	3/47問	B	11/47問	A	33/47問
※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：長文問題での「本文の内容に合わないもの」、文法問題での「空所に補えない語句」を選ぶなどの問題が多い。長文問題の場合は一種の書き換え問題、文法問題の場合は正誤問題のバリエーションと考えられるもので、単純に正しいものを選ぶよりもやっかい。より難度の高い出題形式となっている。
- 2：READING/GRAMMAR SECTION が【I】～【IV】、WRITING SECTION が【V】、【VI】とはっきり色分けされている。最後の【VI】は80語程度の自由英作文の問題（与えられたテーマに関して、自分の意見を1～2つの理由を添えて述べる）で、「英語が読める」だけでは受からない問題となっている。
- 3：【II】が物語文から説明文に変わった。センター試験や東大2次の【V】の同様の変更とリンクしているのかどうか分からないが、より実用的な読解力で合否を判定するという「文学離れ」が、今後の大学入試の英語問題のトレンドとなるのではないか。

こんな力が求められる！

(1) スピード

時間の割に読む英文の量が多い。長文問題の【I】、【II】で正味9ページの問題冊子のうちの7ページ半を占めるが、本文だけで合計約2,700語、問題の選択肢も含めれば合計約5,000語となる。次ページ以降の大問別分析で示した時間配分ではこの2問で75分を割り当てているが、それに基づいて計算すれば本文と選択肢の英語を読むだけで、 $5,000 \text{ 語} \div 75 \text{ 分} = 66.7 \text{ 語/分}$ となる。設問を考える時間を考慮すれば、ある程度以上の難度の文章に対する1分当り90語ほどの読解スピードが要求されていると言えるだろう。というわけで、第1条件として英文読解スピードが必要である。当然、迅速な問題処理能力がなければ話にならない。

これらは入試本番までに一定量以上の英文を読み、入試問題を解くという訓練の積み重ねでしか養成できない。OSクラスなら授業内で扱う問題（テキスト+Practical Exercise）をきちんと学習していただくだけでかなりの部分を養うことができる。Advancedクラスでは残念ながら授業だけでは量が不足する。年度後半で始まる「長文マラソン」と各自が行う過去問研究で量を補わなければならない。

センター試験問題でいえば、9月時点で140点、本番で180点を取れる力が目安となるだろう。

(2) 正確さと論理性

さらに、文章を読めるだけではだめで、間違った英語表現を識別できる正確な文法力と、正確な上にきちんと論理的な英文が書ける作文力も必要だ。文法力は授業内容の完全な習得で身につけ、英作文力はOSクラスならテキストのWriting問題の着実な積み重ねで習得し、Advancedクラスでは講師にみてもらった添削と自由英作文対策のための夏期・冬期講習の講座やスポット授業で必要な学力を獲得しよう。

(3) 全体として

総合的に見れば、奇問、極度の難問はない。申し訳程度だが発音問題もあり、読解力を中心とした実用に耐えられる総合的な英語力を測ろうとしている問題だ。日頃から特定分野に偏らない英語学習を心がけていこう。

## 参考図書

(出典)

【1】 V. S. Naipaul, India: *A Wounded Civilization* (adapted)

【2】 Jared Diamond, *Guns, Germs and Steel: A Short History of Everybody for the Last 13,000 Years* (adapted)

## 大問別分析

【I】

<b>予想配点</b> 22 / 60 点	<b>時間配分の目安</b> 40 / 90 分
<b>出題内容</b> 長文(段落要旨、全文要旨など)・発音・語彙 [Word数] 1500 語 [『でか単』『完熟』レベル] 共に PART 2 までをしっかりとっておく必要がある。 [長文テーマ] ガンジーの伝記にみられるインド人的自我の問題 [長文内容] インドの風土においては、社会による制約が強いので、外界との関わりよりも、自己の内面の探求が強まり、西欧的自我とは異なった自我に発達する。	
<b>出題形式</b> 選択式	
<b>小問別難易度</b> ※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す (1) 1 A 2 B 3 B 4 B 5 B 6 A 7 A (2) 1 A 2 A 3 A 4 A (3) A (4) 1 A 2 A 3 A (5) 1 B 2 C 3 C 4 A	
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b> O スクラスの Practical Exercise で、ある程度の長さの長文を一気に読んで、内容を捉える訓練を積む。	

### ●解答のポイント&学習対策等

本問が、長さも難易度も、英語の結果を左右する問題である。

- (1) 早稲田大学法学部おなじみのパラグラフの要旨の選択問題。7つのパラグラフに対して選択肢は4つのダミーを加えて11あり、多少やっかいである。だが、微妙なものもなく、本文も選択肢も正しく読めさえすれば必ず正解できる。この問題でどれだけ得点できるかで合否が決まりそうだ。
- (2) 5つの選択肢からなる4つのグループから1つずつ本文の内容に合わないものを選ぶ問題。選択肢自体は素直なのでじっくり取り組めれば容易なのだが、(1)と違って本文の該当箇所を特定しにくいので、処理時間が問題となる。この問題をいかに少ない時間で全問正解するかが、合否のもう一つのカギだろう。
- (3) 「自我の確立」は、昔は高校の現代文(昔は「現代国語」と言ったのだが)でよく扱っていた。今でもそうなのかはよく知らないが、やっているにしてもそれは「日本人としての自我」。同じアジアだから近い部分もあると思うが、ストレートに「インド人的自我」なんて、読んだことも聞いたこともないだろう。
- (4) 第一アクセントのある母音が異なるものも選ぶ。2の *intertwine* と3の *immerse* が難しいが、あとはすべて本学のレベルとしては標準レベルの語。普段から音読しておけば容易。
- (5) イディオム・語の意味を選択する問題。1 *take for granted*、2 *fleeting*、3 *at the end of tether*、4 *for good*、語句としては2と3が難しいが、こういうところで惑わされて無駄な時間を費やすと、時間が足りなくなって全体の点数が下がる。最難関校の入試に受かる学力には「これは難しい問題だからできなくても合否には関係ない」と判断できる能力も含まれる。これは「難しくて分からない」と思うこととは違うので、注意すること。

## 【Ⅱ】

<b>予想配点</b> 18/60点	<b>時間配分の目安</b> 35/90分
<b>出題内容</b> 長文(段落要旨, 内容真偽, 全文要旨) [Word数] 1200語 [『でか単』『完熟』レベル] 共にPART2までをしっかりとっておく必要がある。 [長文テーマ] 狩猟採集生活から農耕生活への移行の実態 [長文内容] 狩猟採集から農耕への移行の常識に対する疑い	
<b>出題形式</b> 選択式	
<b>小問別難易度</b> ※問題難易度: C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (1) 1A 2B 3A 4A 5A 6A 7B 8A 9A 10A (2) A;A B;A C;A D;B E;A F;A G;A H;A I;A (3) B	
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b> OSクラスのReading【2】、AdvancedクラスのReading問題をしっかりとっておけば読めるレベルの文章。	

### ●解答のポイント&学習対策等

例年より長くなったが、文章も問題も【Ⅰ】より素直。得点をしっかりと稼ぎたい。

- (1) 【Ⅰ】の(1)と同形式の問題。こちらは10のパラグラフに対して、ダミー5つを加えて15の選択肢から選ぶ。問題としては【Ⅰ】よりは容易。合格するためには2つ以上は間違えられない。
- (2) 9つの選択肢から4つの本文の内容と合わない選択肢を選ぶ形式。形式は異なるが、【Ⅰ】の(2)と結局は同じ。素早く全文から解答箇所を見つけて、どれだけ短時間で判定できるかがポイント。
- (3) 常識とはやや異なる内容の文章だが、文章は素直なので読み取り可能だ。

## 【Ⅲ】

<b>予想配点</b> 4 / 60点	<b>時間配分の目安</b> 【Ⅳ】と合わせて5 / 90分
<b>出題内容</b> 文法&語彙	
<b>出題形式</b> 選択式	
<b>小問別難易度</b> ※問題難易度: C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (1)A (2)A (3)A (4)A	
<b>お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連</b> 個別に述べれば、接続詞(7月)、前置詞(7月)、形容詞(5月)ということになるが、とくに前置詞の用法の理解が重要。	

### ●解答のポイント&学習対策等

- (1) ①はAのatか、Bのbyか決められないが、②がwithと分かるので、Bに決められる。
- (2) ①のasでAに決まる。
- (3) ①ではBしか消せない(接続詞のAlthoughなので)。②もthereかitかまだ決められない。③になってdealと分かるのでCと決まる。
- (4) ①でたぶんAのhowだろうと予測はたつが、決定ではない。②、③は助動詞なので決定打にならず、④はbackがふさわしいので、やはりAだったと分かる。

## 【IV】

予想配点 5 / 60 点	時間配分の目安 【Ⅲ】と合わせて5 / 90 分
出題内容 文法&語彙	
出題形式 選択式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (1)A (2)A (3)A (4)B (5)C	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 (1)時制(6月)、(2)前置詞(7月)、(3)知覚動詞(3、4月)、(4)分詞(3月)、(5)語彙	

### ●解答のポイント&学習対策等

- (1) これを間違えるようなら論外。
- (2) (3)これも間違えたら論外。
- (4) Aの ajar が難語だが、open に動詞用法と形容詞用法があるとちゃんと分かっていたら何とか正解できるだろう。
- (5) scathing, instigate が難しい。

## 【V】

予想配点 3 / 60 点	時間配分の目安 【Ⅵ】と合わせて10 / 90 分
出題内容 条件英作文	
出題形式 記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す (1)A (2)A (3)A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 OSクラスではふだんのWritingをまじめにやっけて添削を受けていけば問題なし。	

### ●解答のポイント&学習対策等

特に対策の必要なし。短時間で全問正解できる。

## 【VI】

予想配点 8/60 点	時間配分の目安 【Ⅴ】と合わせて10 / 90 分
出題内容 自由英作文	
出題形式 記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 OSクラスで隔週毎に行なう自由英作で書き慣れておけば大丈夫。	

### ●解答のポイント&学習対策等

解答欄が6行なので、80語程度の解答になる。2、3の理由をそえて自分の意見を書く、という条件。当然1パラグラフでまとめる。

妥当な内容、文法の正確さもさることながら、やはり時間との戦いも大きなポイント。時間に慣れるために十分な練習が必要である。